

平成26年度社会福祉法人北海道家庭学校事業報告書

(総括)

1. 熱田洋子校長に代わり仁原正幹新校長が就任しました。軽部晴文企画総務部長を新たに迎え、熱田前校長は常務理事として当面する創立百周年記念事業等に専念する体制で平成26年度はスタートしました。職員の採用に関しては、児童自立支援専門員1名と、1組の夫婦職員を採用しました。北海道との交流人事により迎えた阿波加児童自立支援部長が2年間の任期を終えて道に戻り、代わりに泉親志氏を自立支援部長として迎えました。児童生活支援員1名を道の児童相談所へ研修に出しました。6月には栄養士の退職があり、新たに栄養士を採用しました。3月には児童自立支援専門員1名を採用しました。一方3月末で事務員1名、寮母である児童生活支援員2名が退職しました。

2. 26年度中に入所した児童数は13名、退所した児童数は21名でした。27年3月の初日在籍数は31名ですが、中学3年生が11名と最も多く全体の35%を占めており、そのうち10名が義務教育終了と同時に高校進学に合わせて家庭復帰するために退所しました。

3. 自立支援の状況

(1) 個別的・専門的な対応の必要な児童への配慮

入所児童のうち被虐待経験のあるケースが6割、軽度発達障害を抱えるケースが約8割あります。劣悪な養育環境のもとで育った児童や、集団の中で生活を送ることが困難な児童が増えています。26年度中に心理士により29名の児童に対して延146回の心理療法がなされました。性的問題を抱える児童に対する心理サポートも、外部の臨床心理士の支援を受けながら年間7回実施されました。

(2) 分校と連携しての学習支援

入所児童は本館において、遠軽中学校・東小学校それぞれの望の岡分校による義務教育の授業を受けています。月曜・火曜・木曜の午後には総合学習として作業を授業の中に取り入れていただいております。家庭学校の職員とともに作業指導に当たっていただいております。行事においては、分校主催の行事、家庭学校主催の行事に加え共催の行事も開催し、引き続き連携を深めています。

(3) 中卒児童への支援

義務教育を修了している中卒児童への支援は、嘱託職員を中心に、家庭学校の職員も加わり高校進学や就職など児童それぞれの進路に応じたプログラムを用意して対応しました。

高校生への対応は、遠軽高校定時制への通学時の送り迎えや、実習先への送り迎え、紋別高等養護学校寄宿舎への送り迎えなどを行い、卒業に向けた支援を行いました。

4. 寮舎等の整備

26年度は、石上館の改築工事と、職員住宅の新築を行いました。

5. 創立百周年記念事業

9月24日に創立百周年記念事業を実施しました。午前11時に礼拝堂において記念礼拝を家庭学校関係者で執り行いました。午後からは会場を体育館に移し、記念式典を開催しました。式典には285名の来客にお集まりいただき、34の個人・団体に感謝状を贈呈し、北海道知事をはじめとする来賓から祝辞をいただきました。

記念事業としては、そのほかには礼拝堂に鐘を再び設置し、旧桂林寮を博物館として開館させ、百年史の編纂も始めました。児童自立生活援助事業の実施に向けた準備も始めました。

I. 組織体制について

1) 役員

5月29日の理事会において、仁原正幹校長が理事に選任されました。7月31日の理事会において、遠山博監事に代わり辻一憲氏が監事に選任されました。

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	永井 信	理事	佐藤京子
理事	坂本 満	理事	佐々木雅昭
理事	家村 昭矩	理事	仁原正幹
理事	森下 一彦	常務理事	熱田洋子
理事	齋藤 義信	監事	辻 一 憲
理事	太田 充子	監事	枝松 邦彦

2) 嘱託医、顧問、苦情解決第三者委員、事故防止対策委員

嘱託医、顧問、苦情解決第三者委員、事故防止対策委員は、前年度に引き続き次の委員の方々にお願いしました。

役職名	氏名	役職名	氏名
嘱託医（内科）	瀧本 玲子	苦情解決第三者委員	藤江 昭
嘱託医（精神科）	太田 充子	苦情解決第三者委員	熊谷 憲子
嘱託医（歯科）	東海林 浩二	事故防止対策委員	木村 一則
顧問 弁護士	村松法律事務所 村松 弘康	事故防止対策委員	秋保 利勝
		事故防止対策委員	塚田 由美子
山林顧問	森島 直樹	事故防止対策委員	里見 貴史
山林顧問	佐藤 盛市	事故防止対策委員	仁原 正幹

嘱託医には、健康診断を中心に入所児童の健康状況を診ていただきました。

山林顧問には、学校林の山林事業を進めるに当たり、指導助言をいただきました。

顧問弁護士には、訴訟関連で継続してご尽力をいただきました。規程の改正についてもご指導をいただきました。

第三者委員及び事故防止対策委員には、合同の会議を開催し、家庭学校と児童の状況をご報告

し、ご助言をいただきました。

第三者委員会 事故防止対策委員会の開催

第1回合同会議 平成26年12月12日開催

家庭学校の現況について

3) 創立百周年記念事業実行委員会の運営

創立百周年を記念する事業について審議していただきました。

北海道家庭学校創立百周年記念事業実行委員会委員

任期 平成24年9月12日から平成27年3月31日まで

名誉会長	堀 達也	前北海道知事
会長	永井 信	社会福祉法人北海道家庭学校理事長
委員	二井 仁美	北海道教育大学旭川校 教授
〃	佐々木 修一	遠軽町長
〃	河原 英男	遠軽町教育委員会 教育長
〃	藤江 昭	遠軽町社会福祉協議会長
〃	佐渡 博夫	遠軽町自治会連絡協議会長
〃	吉川 紘	北海道家庭学校後援会長
〃	太田 充子	社会福祉法人北海道家庭学校 理事
〃	齋藤 義信	〃
〃	坂本 満	〃
〃	佐々木 雅昭	〃
〃	佐藤 京子	〃
〃	森下 一彦	〃
〃	家村 昭矩	〃
〃	遠山 博	社会福祉法人北海道家庭学校 監事6月6日迄
〃	辻 一憲	〃 7月31日より
〃	枝松 邦幸	〃
〃	仁原 正幹	社会福祉法人北海道家庭学校 校長 理事
〃	熱田 洋子	社会福祉法人北海道家庭学校 常務理事

実行委員会の開催

第4回 平成26年6月30日

- ・百周年記念事業の取組状況の経過報告

第5回 平成26年8月30日

- ・百周年記念事業の取組状況の経過報告

記念式典の準備状況 博物館の状況

第6回 平成26年12月5日

・百周年記念誌の作成について

第7回 平成27年3月26日

・百周年記念事業決算見込み

4) 北海道家庭学校百年史編集委員会

任期 平成26年8月30日から平成29年3月31日まで

委員長	永井 信	社会福祉法人北海道家庭学校理事長
副委員長	二井仁美	北海道教育大学旭川校 教授
委員	大泉 薄	日本福祉大学名誉教授
〃	佐藤京子	社会福祉法人北海道家庭学校理事
〃	家村昭矩	社会福祉法人北海道家庭学校理事
〃	富田 拓	国立きぬ川学院 医務課長
〃	河原英男	遠軽町教育委員会 教育長
〃	森田 穰	湧別町立中湧別小学校長
〃	熱田洋子	社会福祉法人北海道家庭学校常務理事
〃	仁原正幹	社会福祉法人北海道家庭学校長
〃	軽部晴文	社会福祉法人北海道家庭学校企画総務部長
〃	泉 親志	社会福祉法人北海道家庭学校自立支援部長
〃	平井敬二	社会福祉法人北海道家庭学校企画総務次長
〃	姜 京任	社会福祉法人北海道家庭学校心理士

編集委員会の開催

第1回 平成26年8月30日

・百年史の編集について

5) 酪農経営委員会

社会福祉法人北海道家庭学校酪農経営委員会委員

副委員長	紺野勝歳	NPO 法人地域活性化貢献会議副理事長
	坂本 満	社会福祉法人北海道家庭学校 理事
	佐々木雅昭	〃
	遠山 博	社会福祉法人北海道家庭学校 監事 6月6日まで
	枝松邦幸	〃
	平井敬二	社会福祉法人北海道家庭学校企画総務部次長
委員長	熱田洋子	社会福祉法人北海道家庭学校 常務理事

経営委員会の開催

第4回 平成26年4月10日

・経營業務の改善状況について

第5回 平成27年3月23日

・27年度事業計画及び予算について

6) 職員

平成26年度在職職員及び処務分掌は、次のとおりです。

職 名	氏 名	職 務 内 容
校 長	仁 原 正 幹	(26年4月1日採用)
企 画 総 務 部 長	軽 部 晴 文	(26年4月1日採用)
企 画 総 務 部 次 長	平 井 敬 二	法人本部事務(兼)施設事務・会計
書 記	粒 見 弥 生	施設事務(兼)法人本部事務・会計(27年3月31日退職)
栄 養 士	長 谷 川 優 子	栄養管理 給食献立(26年5月31日退職)
栄 養 士	伊 東 睦 子	栄養管理 給食献立(26年6月1日採用)
自 立 支 援 部 長	泉 親 志	人事交流で道から派遣(26年4月1日着任)
児 童 自 立 支 援 専 門 員	楠 哲 雄	主幹 掬泉寮長 作業指導担当
〃	高 橋 徹	生徒指導主任 楽山寮長 作業指導担当
〃	水 原 学	石上館寮長 作業指導担当
〃	坂 本 英 人	向陽寮長
〃	千 葉 正 義	作業指導主任
〃	鬼 頭 庸 介	作業指導担当(26年4月1日採用)
〃	陳 浩	作業指導担当(26年4月1日採用)
〃	西 本 祥 之	調理担当(27年3月9日採用)
児 童 自 立 指 導 員	竹 中 大 幸	作業指導担当
児 童 生 活 支 援 員 (調理員を兼ねる)	楠 美 和	掬泉寮母
〃	高 橋 浩 美	楽山寮母(27年3月31日退職)
〃	水 原 詩 乃	石上館寮母
〃	坂 本 愛 美	向陽寮母(27年3月31日退職)
〃	岸 田 珠 季	教務担当
〃	藤 原 美 香	教務担当(26年4月1日採用)
〃	年 藤 香 苗	北海道との交流人事で旭川児相に派遣
心 理 士	姜 京 任	心理担当
職 業 指 導 員	夔 本 賢 治	酪農部担当
〃	夔 本 広 美	酪農部担当
嘱 託	木 元 勤	中卒生学級担当
〃(調理員)	長 瀬 ひ ろ 子	調理(休暇寮の食事担当) 退職
〃	白 石 明 美	給食調理(26年5月22日採用)
〃	武 田 真 紀 子	給食調理

”	伊 東 睦 子	給食調理（26年5月31日まで）
---	---------	------------------

役職員数

理 事	10名
監 事	2名
嘱託医（内科 精神科 歯科）	3名
山林顧問	2名
顧問弁護士	1名
苦情解決第三者委員	2名
事故防止対策委員	5名
創立百周年記念事業実行委員	18名
酪農経営委員	6名

職員数 30名

平成27年3月31日現在

（内 訳） 校 長	1名
事務職	2名
栄養士	1名
児童自立支援専門員	10名（児童生活指導員1名含む）
児童生活支援員	7名
心理士	1名
職業指導員	2名
嘱託職員	6名
学科指導	1名
調理員	2名
嘱託医	3名

II. 理事会に関すること

1. 理事会の開催状況

開 催 日	議 件
第1回 平成26年5月29日	・ 人事について
	・ 平成25年度社会福祉法人北海道家庭学校一般会計補正予算（第3次補正）について
	・ 平成25年度事業報告及び決算報告について
	・ 石上館改築工事に係る入札について
	・ 理事の選任について ・ 職務代行者の指名について

第2回 平成26年7月31日	・監事の選任について
	・石上館入札結果について
第3回 平成26年12月5日	・創立百周年記念式の実施について
	・創立百周年記念式出席案内について
	・百周年感謝状贈呈要領の一部改正について
	・百周年感謝状贈呈者について
	・百周年記念誌の作成について
第4回 平成27年1月29日	・百周年記念事業決算見込みについて
	・平成26年度社会福祉法人北海道家庭学校一般会計補正予算（第1次補正）について
	・職員住宅の基本財産編入及び石上館の抵当権設定について
	・社会福祉法人北海道家庭学校定款の一部変更について
	・北海道家庭学校博物館の運営について
第5回 平成27年3月26日	・家庭学校酪農経営について
	・児童自立生活援助事業の実施について
	・社会福祉法人北海道家庭学校定款の一部変更並びに社会福祉法人北海道家庭学校定款施行細則の一部変更について
	・児童自立生活援助事業の実施に伴う土地の取得について
第5回 平成27年3月26日	・百周年記念募金による事業の実施について
	・人事について
	・社会福祉法人北海道家庭学校積立金規程の改正について
	・社会福祉法人北海道家庭学校給与規程の改正について
	・百周年記念事業決算について
	・平成26年度社会福祉法人北海道家庭学校一般会計補正予算（第2次補正）
・平成27年度社会福祉法人北海道家庭学校事業計画（案）及び一般会計（案）について	

2. 監事監査について

平成26年5月21日	平成25年度決算監査
平成26年9月29日	定期監査
平成27年1月16日	定期監査
平成27年3月11日	定期監査

III. 諸規程の整備について

関係法制度等の動き、家庭学校の運営や職員の勤務実態に即して、次のとおり諸規程を整備しました。

1. 定款の一部改正

- ・新築された職員住宅を基本財産として定款に記載する必要と、改築した石上館については、抵当権設定登録が必要なことから、定款の一部を改正した。

2. 定款施行細則の一部改正

- ・児童自立生活援助事業を実施することに伴い、施行細則第2条「児童自立支援施設北海道家庭学校」の後に「等」を加えるよう改正した。

3. 旅費規程の一部改正

- ・理事長の旅費日当を他の理事と同額にするよう改正した。

4. 積立金規程の変更

- ・「留岡幸助記念事業積立金」は当初の目的を達成したため廃止し、新たに創立百周年記念募金を原資とする「創立百周年記念事業基金」を立ち上げるため規程の変更を行った。

5. 給与規程の改正

- ・これまで用いてきた給与表を改めるため規程の変更を行った。

IV.主要工事・改修について

- 1 石上館の改築工事と、旧向陽寮を解体し、職員住宅を新築しました。

石上館改築工事 111,240,000円

職員住宅 32,595,000円

心理室の増築 2,656,800円

- 2 創立百周年記念募金により、礼拝堂に鐘を再設置と、旧桂林寮の内部を改修し博物館として開館させました。

鐘の設置工事 464,400円

旧桂林寮改修工事 14,755,600円

V.入所児童の現況について

1. 入所児童について

- 1) 26年度中における児童の入退所状況。

(初日在籍人数及び各月の入退所数)

単位 人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
在籍者数	25	25	27	26	25	26	26	27	29	29	29	31	月平均 27
入所者数	1	2	0	0	1	1	1	2	1	2	2	0	13
退所者数	1	0	1	1	1	0	0	1	0	2	0	14	21

2) 平成 26 年度中における退所者の進路等の状況。

進 路 先		人数	進 路 先	人数
家庭復帰	復 学	1	他の児童福祉施設への措置変更	1
	高校進学	10	不結果	4
	就 職	2	その他	1
	その他	0	計	21
直接就職		2		

3) 児童相談所別入退所の状況

単位 人

区分	中央	函館	室蘭	岩見沢	旭川	帯広	釧路	北見	札幌市	計
入所	2	0	4	2	0	1	1	0	3	13
退所	1	0	5	1	3	0	1	6	4	21

2. 寮運営について

寮の運営については、年度を通して4寮（一般寮3 高校生寮1）で行いました。3月中旬から新築になった石上館が再開しています。

3. 作業班学習について

月曜・火曜・木曜日の午後の週3日、蔬菜部、園芸部、山林部、校内管理部、酪農部の5部に分かれ、作業班学習を行いました。活動内容については11月20日、21日の両日にわたって発表会を行いました。

各作業班における主な活動内容は次のとおりです。

	蔬菜部	園芸部	山林部	校内管理部	酪農部
4月	ビニールハウス補修・造営 苗仮植	花の苗作り 温床 ビニールハウス組立	安全講習 間伐 除伐 神社山リフト ト降し	校舎周辺環境整備 スノーポール撤収 グラウンド融雪	バター小屋片付け 電牧張り 肥料散布
5月	野菜苗植え付け 播種	花の苗作り	礼拝堂周辺整備 林道倒木整理	スキー場リフト撤収 味噌作り	牛舎周辺の整備 除草 尿散布 肥料散布 除草
6月	追肥 野菜の苗の定植 雑草抜き	花の苗定植 草刈り	登山道整備 薪材 の配布	木工教室屋根塗装	機械整備 牧草収 穫 草地の更新 堆肥切替し
7月	牧草収納応援 野菜間引き	花の苗定植 花壇の除草	平和山山頂草刈り 環境整備	屋根塗装 礼拝堂横柵補修	牧草収穫 播種 徐角 除草
8月	草刈り 野菜収穫	花壇の除草	山林安全講習 草刈り	屋根塗装	除草 尿散布 牧 草収穫 環境整備
9月	秋野菜の播種 野菜収穫	花壇の除草	環境整備 雑木伐 スキー場の準備	草刈り 道路補修	牧草収穫 バンカ ーサイロの移設

					収穫機械整備 サイレージ製造 耕起
10月	野菜の収穫 肥料撒き 落ち葉集め 野菜収穫	ドライフラワー作り 土作り 花壇の後片付け 球根の保存	スノーポール用雑木伐 スキー場整備	案内板補修	サイレージ収穫機械整備 堆肥移動 バター製造用薪作り バター小屋準備 草地更新
11月	作業班学習発表会				堆肥の切返し 散布 機械整備
12月	道具の手入れ 豆の殻むき 天地返し	発表会后学習 土焼き	除雪 風倒木処理	スノーポール設置 クリスマスリース作り	バター製造 電牧線撤収 堆肥移動 除雪 堆肥切返し
1月	除雪 土焼き		除雪 スキー大会準備	除雪 屋根の雪降し スキー場整備	除雪 堆肥切返し バター製造
2月	除雪	土焼き 播種 育苗 除雪	除雪 スキー大会準備	除雪 屋根の雪降し	除雪 堆肥切返し バター製造 徐角
3月	除雪 土焼き 融雪	土焼き 温床整備 播種 育苗 仮植	風倒木処理 材出し	除雪 平和寮浴室 改修 屋根雪降し	除雪 堆肥切返し バター製造

4. 事故等の発生状況

1) 年度別無断外出の発生状況 ()内の数は一時帰省より未帰校数

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
件数	2	7 (1)	3	6	10
述べ人数	5	16 (1)	8	13	17

5. クラブ活動について

5月から10月まで、土曜日の午前中にクラブ活動を実施しました。

種目は 陸上・バトミントン・合気道の3種目

合気道は、吉野政明先生と棚橋先生にご指導いただきました。10月には札幌の今村先生と埼玉の石垣先生による特別指導を受けました。

6. 年間行事等の状況

4月	7日一学期始業式 14日散髪奉仕 17日内科検診
5月	5～6日校長杯(ソフトボール) 20日花見の会 22日体力テスト
6月	4日マラソン大会 9日散髪奉仕受ける 29日運動会

7月	5日プロ野球観戦 16日炊事遠足 28日散髪奉仕受ける 30日済美館清掃
8月	3日物故者慰霊祭 4～15日夏季一時帰省 19日二学期始業式 30日花火大会鑑賞
9月	8日散髪奉仕 17日マラソン大会 19日木彫コンクール 24日創立百周年記念式
10月	1～3日研修旅行 20日園遊会
11月	20～21日作業班学習発表会 23日収穫感謝祭
12月	11日自衛隊音楽慰問演奏会 19日音楽発表会 23日クリスマス礼拝・晩餐会 26～1月8日冬季一時帰省 31日歳末祈祷会
1月	1日新年の式 13日三学期始業式 15～21日スキー学習 22日スキー検定 26日散髪奉仕 29日スキー大会（距離）
2月	5日スキー大会（滑降） 12日スキー大会（大回転） 13日雪像コンクール 24日スキー大会（回転） 27日スキー大会（寮対抗リレー）
3月	9日散髪奉仕 21日卒業証書授与式 24日修了式 27～30日春帰省

7. 会議の開催状況

会議を次のとおり行いました。

- ① 職員会議 … 定例開催（毎週水曜日午前）
- ② 成績査定会議 … 成績を査定し、三賞（努力賞・作業賞・学習賞）を決定する。
4月4日 7月23日 3月18日
- ③ 作業班編成会議 … 4月4日 8月16日
- ④ 献立会議 … 毎月1回定例開催

8. 関係機関との連携・打合せ

・児童相談所との連携

児童相談所との連携を深めるため、入所児童の経過判定のための来校時に打合せや意見交換を行いました。行事の際には各児童相談所に案内しました。

・関係機関との連携

卒業証書授与式には原籍校の校長などが出席しました。行事の際には案内しました。

遠軽高校定時制、紋別高等養護学校とは密接に連携を行いました。

・入所児童の地域への復帰に際し、地元での要保護児童対策地域協議会に出席しました。

上富良野町 10月10日 自立支援部長 寮長参加

9. 児童自立支援計画票の作成

5月と11月にはすべての入所児童の自立支援計画票を作成し、各児童相談所に送付しました。

VI 職員研修について

職員の資質の向上を図るために、外部の研修会にも参加しました。

<p>校長</p> <ul style="list-style-type: none">・東北・北海道地区施設協議会施設長研修会 4月17日～18日 盛岡市・全国児童自立支援施設長研修会 5月28日～30日 秋田市・旭川地区広域補導連絡協議会研修会における講師 7月9日 旭川市・北海道児童相談所長協議会 7月15日 札幌市・旭川市青少年補導員及び警察少年補導員合同研修会における講師 10月15日 旭川市・オホーツク管内市町村教育委員大会における講師 12月8日～9日 網走市
<p>自立支援部長</p> <ul style="list-style-type: none">・少年矯正施設と関係機関との連携会議 11月25日～27日 札幌市
<p>企画総務部次長</p> <ul style="list-style-type: none">・社会福祉施設ブロック研修会 9月4日～5日 札幌市
<p>児童自立支援専門員</p> <ul style="list-style-type: none">・全国児童自立支援施設スーパーバイザー研修会 6月9日～13日 さいたま市 楠寮長・東北・北海道地区児童自立支援施設協議会職員研修会 7月10日～11日 札幌市 陳専門員・北海道児童養護施設等基幹的職員研修会 1月26日～27日 2月23日～24日 札幌市 楠寮長
<p>児童生活支援員</p> <ul style="list-style-type: none">・全国児童自立支援施設新任職員研修会 7月6日～11日 さいたま市 藤原支援員
<p>児童自立指導員</p> <ul style="list-style-type: none">・東北・北海道地区児童自立支援施設協議会職員研修会 11月26日～28日 七飯町 竹中指導員
<p>心理士</p> <ul style="list-style-type: none">・道内児童自立支援施設心理担当者研修会 5月26日～28日 大沼学園・北海道地域児童相談研究会 6月14日～15日 札幌市・コモンセンス・ペアレンティング勉強会 7月18日 北広島市・児童福祉施設心理職員経験交流会 9月16日～17日 札幌市・東北・北海道地区児童自立支援施設協議会 心理部会 10月20日～23日 須賀川市・北海道地域児童相談研究会 12月6日～7日 札幌市
<p>職業指導員</p> <ul style="list-style-type: none">・北海道放牧酪農ネットワーク交流会 8月25日 足寄町

VIII. 生産活動

1. 山林経営管理について

これまで森林施業計画に基づき計画的に造林や伐採などが行われてきましたが、平成23年4月に森林法の一部が改正され、林班単位の面的まとまりのある森林を対象として森林経営を行うことになりました。平成26年度は、この新たな考え方のもとでの森林経営計画の3年目となり、森林組合に委託して、次の事業を中心に、材木の育成の促進及び健全化のための事業を実施しました。なお、これらの事業を進めるに当たり、山林顧問に相談し助言をいただきました。

家庭学校の所有する山林は、遠軽町から湧別町にまたがって約400ヘクタールで、樹種は、天然林が42%、カラマツが32%、トドマツが23%、他に、グイマツ、ミズナラ、トウヒ、赤エゾマツとストローブが植えられています。

<林班別の面積・樹種>

(遠軽町)

- 71 林班 88ha、天然林広葉樹、カラマツ、一部トドマツ
- 72 林班 8ha、カラマツ、天然林広葉樹、トドマツ
- 73 林班 3ha カラマツ、天然林広葉樹
- 74 林班 128ha 天然林広葉樹(78ha)、トドマツ、カラマツ、グイマツ、赤エゾマツ
- 75 林班 82ha、天然林広葉樹(43ha)、トドマツ、カラマツ、トウヒ、赤エゾマツ
- 76 林班 46ha 天然林広葉樹、カラマツ、トドマツ、赤エゾマツ、ストローブ

(湧別町)

- 18 林班 21ha カラマツ、グイマツ
- 19 林班 23ha トドマツ、カラマツ

山林事業の実施状況

- ① 下草刈事業 遠軽町留岡 71-16・22林班外 カラ19.32ha
(6月) 事業費 894,457円 (うち補助金 779,970円)
- ② 森林保護事業(野鼠駆除)
(10月) 事業費 78,525円 (うち補助金 56,343円)
- ③ 除伐 遠軽町留岡 74-17林班外 トド 6.17ha
(8月) 事業費 690,984円 (うち補助金 573,548円)
- ④ 間伐 遠軽町留岡 75-11林班外 トド 4.96ha
(7月) 事業費 2,300,556円 (うち補助金1,707,552円)
材売上 2,770,535円
- ⑤ 皆伐 遠軽町留岡 71-8林班 カラ 5ha
(2月) 材売上 3,942,000円
(事業費差引後)
- ⑥ 造林 遠軽町留岡 75-9林班外 カラ 15.24ha

(9月) 事業費 4, 377, 910円 (うち補助金4, 139, 742円)

参 考

合 計 (平成25年度の状況)

○事業費	8, 342, 432円	(4, 852, 984円)
うち補助金	7, 257, 155円	(4, 286, 625円)
○材売上	6, 712, 535円	(6, 467, 294円)

(ただし、皆伐の材売上は、事業費差引後)

2. 酪農経営管理について

酪農経営については、平成23年度から、専門家による指導が始まり、平成24年7月からは、紺野先生が、毎月1回来校され、26年度も引き続き、レクチャー及び現場指導が行われました。

牛の飼養管理、草地の管理・雑草駆除、現場のデータ蓄積等の全般的な指導を受けながら、牛乳生産やバター製造を行いました。

(1) 家庭学校の草地の状況

	通 称	面積 ha		通 称	面積 ha		通 称	面積 ha
①	向陽寮裏	0.64	⑤	住宅前	0.44	⑨	川口畑(大)	2.73
②	洗心寮前	0.34	⑥	礼拝堂裏	0.39	⑩	川口畑(奥)	1.37
③	神社山	1.42	⑦	四町畑	4.52	⑪	川口畑(小)	0.61
④	給食棟・楽山寮横	0.90	⑧	掬泉寮裏	0.52		計	13.88

○牧草の収穫 〈平成26年度〉

刈取日	収納日	梱包個数	圃場	刈取日	収納日	梱包個数	圃場
6/21	6/25~27	237	向陽寮裏	8/12	8/17	78	礼拝堂裏
		566	神社山	8/29	9/1	119	向陽寮裏
		378	楽山寮 給食棟			263	神社山
		149	礼拝堂裏			185	楽山寮 給食棟
6/28	7/1~ /3	158	掬泉寮裏	8/31	9/2	397	川口畑 (大)
		412	四町畑 (一部)	9/6	9/9	29	川口畑 (小)
		186	川口畑 (小)			98	川口畑 (奥)
6/30	7/3	720	川口畑 (大)			39	洗心寮前
		279	川口畑 (奥)	合計		1208	
7/14	7/17	44	洗心寮前				
7/19	7/21~22	897	四町畑 (残り)				
合計		4026					

平成26年度 梱包個数 合計 5, 234個 (平成25年度 4, 677個)

○牛群構成（ホルスタイン、ジャージー）

〈平成 26 年 4 月〉

区分	経産牛							育成牛			合計
	7~10 歳	6 歳	5 歳	4 歳	3 歳	2 歳	計	1 歳	0 歳	計	
頭数	6(2)	2 (1)	2	4(1)	4	5 (1)	23(5)	4(1)	8(2)	12(3)	35(8)

() 内は、ジャージーの頭数で、内数である。

〈平成 27 年 3 月〉

区分	経産牛							育成牛			合計
	7~10 歳	6 歳	5 歳	4 歳	3 歳	2 歳	計	1 歳	0 歳	計	
頭数	4(1)	2	4(1)	3	4 (2)	4(1)	21(5)	9(2)	10(2)	19(4)	40(9)

() 内は、ジャージーの頭数で、内数である。

○分娩件数 平成 26 年度 (26. 4~27. 3) 23 頭

○ 生産乳量 1 2 3. 2 t 販売金額 9, 5 3 2, 5 5 2 円
 (平成 2 5 年度 1 3 3. 2 t 1 0, 0 2 9, 3 4 1 円)

○ 固体販売頭数 1 1 頭 販売金額 7 7 4, 8 5 9 円
 (平成 2 5 年度 1 8 頭 1, 3 1 2, 7 7 1 円)

○ バター生産量 1 1 6. 7 kg (5 1 9 個 : 2 2 5 g 入)
 (平成 2 5 年度 1 0 7. 1 kg 4 7 6 個 : 2 2 5 g 入)

平成 25 年 2 月に設置された「社会福祉法人家庭学校酪農経営委員会」において、酪農の経営状況の把握と、酪農経営のあり方についての審議が継続して行われました。(紺野先生は、酪農経営委員会の委員)

主なポイントは、次のとおり。

〈草地関係〉

- ・放牧地の草量を、牛の頭数に見合った豊かな草量に増やしていくこと
- ・採草地の収穫にあつては、時期や天候等を考慮し、栄養価の高い草質と草量を確保できるよう改善すること（良質の自給飼料を十分に与えるため）
- ・雑草退治、堆肥づくりを効果的に行うこと

〈乳牛の飼養管理〉

- ・牛の体調を十分にチェック、適切な飼料給与を行うこと（乳量増のため）
- ・繁殖日数の改善に努めること

〈周辺の環境関係〉

- ・建物内外の清掃、清潔保持を怠らないこと
- ・パドックと周辺の配置を検討すること

農機具管理については、清掃、点検、整備、格納をきちんと行うこと

VIII 見学等の来校者の対応状況

月	件数	人数
4月	4件	6名
5月	11件	11名
6月	11件	90名
7月	15件	84名
8月	11件	24名
9月	10件	120名
10月	12件	110名
11月	11件	59名
12月	2件	3名
1月	2件	10名
2月	3件	4名
3月	3件	6名
計	95件	576名